

令和2年5月25日

73期生、74期生、75期生諸君へ

埼玉県立春日部高等学校長 坂上 節

開校記念日に寄せて

5月25日。

私は今、開校記念日を生徒諸君のいない学校で迎えています。

122回目の記念日。

いつもなら開放広場に集合して、諸君と一緒に記念すべき日を盛大に祝うはずなのに、学校臨時休校期間の今回は校長室の静寂の中で、諸君のことに思いを巡らせています。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、学校が臨時休校となったのは3月2日。

73期生、74期生、75期生は約3カ月もの間、誰も経験したことのない日々を過ごしてきました。

これまでと違って、教室で授業を受けられない。

友達と学校で会えない。

早朝や放課後の補習も受けられない。

部活動も生徒会活動も出来ない。

かつての非日常が日常になったとも言える世界で、それでも諸君はしっかりと己を持ち、自己管理を怠らずに自宅で一生懸命勉強していることに感心します。

さすがは春高生。

埼玉県を代表する高校に通う生徒達だと、改めて認識させられます。

諸君は本当に大したものです。

このウイルスは日本中、いや、世界中からいろいろな夢を奪いました。

インターハイの中止、夏の甲子園大会の中止、総文祭（全国高等学校総合文化祭）のウェブ開催への変更などなど、ウイルスの感染拡大の影響で絶たれてしまった夢がたくさんあります。

そして、日本のみならず世界中の人たちが同じ悔しさを味わっています。

この状況にあって、「学校は休校で、部活動再開のメドも立たない。やれないことだらけだ。」と思ったら、全てはそのとおりにになってしまうものです。

嘆いていれば、嘆くような世界しか見えてきません。

絶望的と捉えれば、物事は絶望的にしか見えません。

今はひたすら、やれることを見つけてそれをやる。

与えられた環境で全力を尽くす。

そして知恵を働かせて、環境そのものをより良いものへと変えていく。

これが春高生の特徴です。

春高生のストロングポイントは、与えられた条件の中で精一杯にベストを尽くせるメンタリティーにあります。

1899年の創立以来、春高は120年の歳月をかけてそんな生徒を育て続け、学校の隅々にまでこの価値観を行き渡らせてきました。

そんな学校の生徒である諸君は、能力が高くメンタリティーも強いのですから、3カ月程度の休校くらいは必ず取り返せるだけのポテンシャルを持っています。

むしろ、もともと黙々と努力する力が備わっているのですから、学校が再開されたときに諸君は全国の高校生の中でもかなり有利な位置にいるはずです。

きっといつのときか、後世の春高生はこう言うはずです。

「73期生、74期生、75期生はみんなが団結してコロナの悲劇を乗り越えた。たくさんものを失わざるを得ない時代にあって、過去のどの代よりも多くのものを身につけた。」

学校再開の日もそう遠くはないでしょう。

開校記念日が私にその日が近いことを予感させます。

もはや、私たちの居るべき場所は絶望中ではありません。

明日に目を向けてみんなで一緒に前に歩み出すときです。

諸君、私たちの理性と知性と忍耐力を結集して、困難に終止符を打ち、心の底から春高での生活を楽しんで行こうではありませんか。

私たちは3カ月を失ったが、まだ未来が残っている。

新しい時代の新しい伝統を築き上げる開拓者として、再び一緒に頑張っていきましょう。